

御 挨拶

会長顔写真

山口県スキー連盟会長

中村克巳

朝夕はめっきり涼しくなりましたが、皆様にはお元気のことと存じます。

昨シーズンは暖冬の積雪不足に加え、コロナの感染の脅威もあり、全体的にスキーヤーが減りました。一方、人口降雪機の充実した設備の良いスキー場にはスキーヤーが集中し、リフトの待ち時間が長く、ゲレンデは混雑するなどスキー環境は最悪でした。シーズン後には、スキー場経営の不振から、主要なスキー場である芸北国際スキー場や瑞穂スキー場が閉鎖するなど、山口県近郊のスキー環境は非常に劣化しております。

ここで改めて皆さんに提案したいのは、スキーに対する「Passion 熱い思い」をもう一度思い出しませんか？

陸軍の地図を手に入れて十種ヶ峰がスキーにふさわしい地であることを見つけ、大正14年12月に県初のシュプールを描いた嶺亮介、時期を同じく平成14年末、嶺とは別に、同志社大学でスキーを始めて病みつきになり嘉年村の近郊の台山で県初のシュプールを描いた山根一郎、二人の山口県スキーの先駆者のスキーへのPassion. 戦後間もない昭和23年に、船平山のゲレンデの整備とヒュッテの建設と臨時駅の建設に尽力し実現した県スキー連盟の杉本耕作、徳見七郎らのPassion. 昭和27年初めて自前で国体に参加した鈴木(岩国)、大野(岩国)、渡壁(宇部)、喜連(山口)、藤山(嘉年)ら12名のPassion. 昭和40年連盟の財政難の中、SAJの指向に沿うように県連盟の指導体制を近代化するために立ち上がり改革を行った河村文人、中村長行、渡壁克巳3名のPassion. 多くの先人たちのPassion. 私たちも、先人たちにも負けないスキーに対する「Passion 熱き思い」がある、あつたと思います。今スキー環境が悪いからこそ、スキーへの熱い思いをもう一度確認して、今シーズンはスキーをしっかりと楽しんでいただきたい。

連盟の課題は、昨年と同様、本連盟の課題は、組織が永続可能な体制にするためのシステム作りです。

- 1 ジュニアスキーヤーの発掘
- 2 全年齢にわたるスキーヤーの増加
- 3 競技役員の高齢化に伴う人手不足に対する対応と対策
- 4 連盟の財政面の改善

会員の皆さん、よろしくお願ひします。

最後になりましたが、来るシーズンが天候に恵まれ、良いシーズンが送れるように祈念し、また、各行事に支援を賜っている関係各位に対し、心からの感謝の意を表し、御挨拶といたします。